

【達成状況に関する評価基準】※運営に関する計画の評価基準と同じ
A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【別紙1ー加算配付用】

令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】実施報告書(選定校記載用)

(校園コード 582210)

※校園コードを入力してください。

学校名 大正東中学校

※学校名は校園コードを入力すると自動で表記されます。

取組に対する評価状況

学校関係者による評価実施済

1 配付額 1,111,200 円 → 決算額 1,087,760 円

2 自校の現状・課題(※小・中学校においては、学力課題に限定)

今年度の三年生は学力に課題のある生徒の数が多く、一方で力のある生徒も多く、度数分布で本校の課題である「ふたこぶ」が顕著に表れている。
問題行動など生活指導上の課題を持つ生徒の数は一部であるが、それらの生徒の課題は大きい。関係機関の支援を受けている生徒も複数いる。
今年度も全国学力調査の国語、数学両分野とも大阪市平均より低い結果が出た。その他の教科についても、「チャレンジテスト」や「大阪市統一テスト」において、大阪市平均より低い結果になった。
ICT機器を活用した授業やアクティブラーニングなど、教科ごとに工夫した授業づくりを行っているが、まだまだ改善していかなければならない。しかしながら、生徒質問紙調査の規範意識や自尊感情にかかわる項目では、昨年度よりポイントが高くなっている。このことから、学年や学校の取り組みが一定の成果を上げていると考えられる。今後も学校が学力保障とともに、本来家庭が担うべき部分も補い、様々な心の教育を実施していきたい。また、保護者への啓発と協力関係を深め、家庭での生活習慣の改善と規範意識の醸成を図っていく。

3 年度目標(※小・中学校においては、学力向上の目標を記載すること)

○2019年度のチャレンジテストにおける標準化得点を同一母集団で比較し、いずれの学年でも前年度より向上させる。
○2019年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年でも前年度より1.5ポイント減少させる。
○2019年度のチャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年でも前年度より1.5ポイント増加させる。

目標に対する達成状況(取組完了時)

上記3項目ともに、目標値を下回った。

達成

C

4 年度目標達成に向けた取組内容(予算反映するもののみ記載)

取組内容②【施策5、子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取り組み】
読解・記述・表現などコミュニケーション能力の育成に向けた取り組みを実施計画に基づき各教科、道徳、総合的な学習の時間において実施する。
取組内容⑦【施策5、全市共通テストの導入】
教科毎に工夫し、チャレンジテストの結果を大阪市平均に近づける。

5 年度目標に応じた事業効果を測る指標(期待する効果等)

指標 平成30年度の学校アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の項目について『当てはまる(どちらかといえば当てはまる)』と答える生徒の割合を、70%以上にする
指標 学校アンケート「授業で基本的な内容は理解できている」の項目について『当てはまる(どちらかといえば当てはまる)』と答える生徒の割合を、70%にする。

指標に対する達成状況(取組完了時)

平成30年度の学校アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の項目について『当てはまる(どちらかといえば当てはまる)』と答える生徒の割合は76%であり、
「授業で基本的な内容は理解できている」の項目について『当てはまる(どちらかといえば当てはまる)』と答える生徒の割合は、社会科の92%～数学科の73%の間に全教科があり、目標に達している。

達成

B

※事業効果は必ず数値目標を設定のうえ、進捗状況を測ることができる内容としてください。

6 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	講師を要請して研修会実施 教材ソフトの購入	授業実践							
		他地区の取り組みの視察(広島、岡山、大阪府下の他市) 外部講師による校内研修							
効果検証						生徒アンケートの実施と集計、分析			授業実践は次年度より

取組

1

(校 園 コー ド 582210)
学 校 名 大 正 東 中 学 校

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】 施策5、子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取り組み【 読解・記述・表現などコミュニケーション能力の育成に向けた取り組みを実施計画 に基づき各教科、道徳、総合的な学習の時間において実施する。	委員会使用欄	達成 C
予算内訳 タブレットで活用するデジタルコンテンツの購入。 11-1学習教材、タブレットドリル(1教科5年リース料14万円×5科)70万円 11-1情報教育、(モラル&リテラシー5年リース)30万円		
期待される効果 タブレットドリルを活用して、基礎基本の一層の定着が期待される。 情報モラル教育は、喫緊の課題であるが、日々の変化により多様化している。この教材により指導内容を深められる。		

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	講師を要請して研修 会実施 教材ソフトの購入		授業実践						
効果検証						生徒アンケートの実 施と集計、分析			

(3) 取組内容に対する中間報告

- ☒ スケジュールどおり実施できている。
☐ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)

[大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度未到達目標の修正など)

--

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳 11-1 学習教材、タブレットドリル @79,900×5教科(5年間)=399,500円 11-1 情報教育、モラル&リテラシー@399,800×1(5年間)=399,800円 11-1 生徒用机、椅子(6号) @13,376×15セット=200,640円

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。

取組
2

(校 園 コー ド 582210)
学 校 名 大 正 東 中 学 校

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】 施策5、子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取り組み 読解・記述・表現などコミュニケーション能力の育成に向けた取り組みを実施計画に基づき各教科、道徳、総合的な学習の時間において実施する。	委員会使用欄	達成
		C
予算内訳 主体的、対話的で深い学びについての研修会の講師料（1時間5,200×6時間）31,200円 同じく、主体的、対話的で深い学び実践地域への視察旅費 8万円		
期待される効果 主体的、対話的深い学びの実践により、学力向上はもちろん、生活指導体制や不登校対策もより良い形に移行できる。		

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み					他地区の取り組みの視察 （広島、岡山、大阪府下の他市） 外部講師による校内研修				
効果検証									授業実践は次年度より

(3) 取組内容に対する中間報告

- ☐ スケジュールどおり実施できている。
☒ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)
 [大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

--

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳 08-1 主体的、対話的で深い学びについての研修会（講師相当）@5,200×2時間+交通費240＝10,640円 09-5 主体的、対話的で深い学び実践地域への視察（広島3名+岡山1名）@64,360+12,820＝77,180円
--

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。